

平成27年度ふるさとレスキュー取組

奥大野ふるさとレスキュー

京都府北部にある京丹後市の玄関口に位置し、整備された水田と大規模畑地が広がる美しい奥大野地区で、安心安全なまちづくりを目指して、京丹後市消防団大宮第2分団と奥大野自主防災会等の地元住民の有志により、「奥大野ふるさとレスキュー」が結成されました。10月23日には、発足式を実施し、資機材を披露しました。



平成26年度ふるさとレスキュー取組

佐野甲ふるさとレスキュー

京都府の北西端に位置し、美しい久美浜湾が広がる京丹後市久美浜町の佐野甲地区で、安心安全なまちづくりを目指して、京丹後市消防団久美浜分団と佐野甲自警消防団、佐野甲区住民の有志により、「佐野甲ふるさとレスキュー」が結成されました。2月15日には、京丹後市消防本部の指導のもと、AED講習を実施されました。



和田ふるさとレスキュー

京都府の中部に位置し、京都のへそで有名な南丹市日吉町の和田地区で、地域住民が安心安全に暮らせるまちづくりを目指し、南丹市消防団日吉支団と和田区壮年会により、「和田ふるさとレスキュー」が結成されました。3月末から活動を開始しており、今後応急救護講習や資機材の取扱訓練を実施する予定です。

ふるさとレスキュー佐賀

福知山市の東部にあり相長川の清流が流れ、豊かな自然に囲まれる佐賀地区で、安心・安全な地域づくりを目指して、福知山市消防団佐賀分団と佐賀自主防災会により、「ふるさとレスキュー佐賀」が結成されました。3月22日に発足式が行われ、資機材披露や福知山市消防団佐賀分団の指導のもと、応急手当訓練が実施されました。



池内ふるさとレスキュー

舞鶴市の南部、伊佐津川支流・池内川流域に位置する池内地区で、安心して安全な地域づくりを目指して、舞鶴市池内消防団と池内振興協議会、池内区長会を中心に、「池内ふるさとレスキュー」が結成されました。3月末より活動を開始しており、4月12日には発足披露式が行われ、舞鶴市消防本部の指導により、救急講習が実施されました。



平成25年度ふるさとレスキュー取組

ふるさとレスキュー雲原

福知山市の北部、冬場は深い雪に覆われる雲原地区で、福知山市消防団雲原分団の団員と自治会、民生委員等の方々によるふるさとレスキューが始まりました。地元公民館を活動拠点に救助資機材を配備し、スタート式を行った。3月9日は、府立消防学校の指導のもと、救助資機材等の取り扱い訓練を実施しました。



上宇川ふるさとレスキュー

京都府の最も北、24年度に取組を始めた「下宇川」のとなり、京丹後市の上宇川地区で、京丹後市消防団丹後第3分団の団員と上宇川連合区の区の地元有志が話し合いを進め、平住民センターを活動拠点にふるさとレスキューを結成しました。3月16日にスタート式を行い、式後の救命講習では、団員・区長会・自主防災会などのレスキューメンバーが最新の救命法を修得しました。



蒲入ふるさとレスキュー

丹後半島の北東岸に面した、伊根町の蒲入地域で、伊根町消防団第2分団第3部の団員と自主防災会等の地域住民による「蒲入ふるさとレスキュー」が結成されました、安心安全な地域づくりを目指して、3月19日に救急救命講習を実施し、活動を開始しています。団員が少ない地域ですが、地域全体で結束し、災害に対応します。



由良ふるさとレスキュー

日本海を間近にのぞむ宮津市の由良地域で、宮津市消防団由良分団の団員と自衛消防隊等の地域住民の皆さんが、安心安全な地域づくりを目指して「由良ふるさとレスキュー」を立ち上げました。3月26日に由良の里センターでスタート式を実施し、活動を開始しました。事故や傷病者発生時に、現場に駆けつけ、可能な応急手当を行い救急隊等につないだり、大規模災害発生時に備えます。



東大浦ふるさとレスキュー

大浦半島のほぼ東半分を集落が点在する舞鶴市の東大浦地域で、舞鶴市東大浦消防団の団員を中心にふるさとレスキューが結成され、3月29日をもって活動を始めます。今後は、AEDや資機材の取扱いに関して舞鶴市消防本部から講習を受けながら、地域の高齢者などを助けていきます。



平成24年度ふるさとレスキュー取組地域

岡田中ふるさとレスキュー

消防署から遠隔地の舞鶴市西端、岡田中の8集落で、地元消防団員と自主防災組織の方々が結集、基幹集落センターを活動拠点に、AEDやストレッチャーなどの資機材を配備し、ふるさとレスキューに取り組むこととなりました。

10月27日にスタート式を行い、併せて日赤の協力で救命講習を実施しています。



下宇川ふるさとレスキュー

丹後半島の北部沿岸、風光明媚な下宇川の7集落で、丹後第4分団と区長会が話し合いを進め、中浜区民会館を活動拠点にふるさとレスキューを結成しました。

快晴に恵まれた初冬の11月25日、スタート式を行い、式後の救命講習では、団員・区長会・自主防災会などのレスキューメンバーに地元駐在所も加わり、最新の救命法を修得しています。



野間ふるさとレスキュー

過疎が進む野間地域、しかしながら地域の結束はどこよりも強固、災害時に一時孤立した経験もあり、これからの野間地域の安心安全な暮らしを考える中で、ふるさとレスキューを立ち上げることになりました。

安定した地域サテライト機能のある基幹集落センターを核に、急な傷病者の見守りや救急隊との連携による活動を2月1日から開始、大型発電機や投光器など大規模災害時用の資機材も配備しました。



和知北部ふるさとレスキュー

長老山はじめ丹波の山々にいだかれた和知北部の5集落で、地元消防団・和知支団のメンバーを中心に、3月10日ふるさとレスキューが立ち上がりました。地元の地理を熟知しているレスキューメンバーであればこそ、地元の人が谷や川で何かあったとき迅速に駆けつけられる、まずはそうした一歩からはじめます。5集落にAEDを配備し、今後各集落で順次救命講習をくり広げていきます。



奥上林ふるさとレスキュー

自然豊かな水源の里奥上林の4集落で、綾部市消防団奥上林分団の団員有志がふるさとレスキューを結成しました。3月24日は奥上林研修センター体育館でスタート式と救命講習を実施しました。水源の里に配備したAEDや担架などの資機材を活用し、救急隊が来るまで現場で地域の人を助けます。

